

(公社) 日本臨床工学技士会 平成 25 年度第 1 回常任理事会 議事録

1. 開催日時：平成 25 年 7 月 27 日 (土) 14:00～16:40
 2. 開催場所：(公社) 日本臨床工学技士会 事務所 2F 会議室 (文京区本郷 3 丁目 4 - 3)
 3. 定足数：会長、副会長、専務理事、常任理事、内部監事 (計 17 名)
 4. 出席者：川崎忠行、本間崇、井福武志、真下泰、那須野修一、金子岩和、大石義英、柴田昌典、吉田秀人、森脇藤代美、井上勝哉、野村知由樹、原田俊和、肥田泰幸、高橋純子 (以上、常任理事および専務理事 15 名)、
 - ・委任出席：高橋秀暢 (常任理事)
 - ・佐藤 正広 (第 23 回日本臨床工学会 学会長)
 - ・鈴木 一郎 (第 24 回日本臨床工学会 学会長)
 - ・西村和典 (内部監事)
 - ・松阪淳 (事務局長)
- 出席者総数：20 名
5. 議長：川崎忠行 司会進行：那須野修一 書記：野村知由樹
 6. 議事録署名人名：川崎忠行 (会長)・西村和典 (監事)
 7. 議題および議事内容

事前に送付された「平成 25 年度第 1 回常任理事会議案書」及び追加資料に沿い議事進行がなされた。審議および要旨内容は下記のとおりである。

議題 1. 「(公社) 日本臨床工学技士会 業務分担・委員会組織」の件 (報告および承認事項)

- 1) 那須野専務理事より、委員会名簿が資料として提示され次の発言がなされた。
 - (1)従前では 7 月末発行の「たより」に委員会名簿を掲載していたが、今期は委員長・委員の人選に時間を要している委員会もあるので掲載を見送った。しかし今年度の事業が滞ることがないように、担当理事においては早急に人選を行うようお願いしたい。
 - (2)委員会メーリングリストは、事業が滞ることがないように現在も前期までのもので運用されている。新委員が決定次第、担当理事は運用開始を私迄申し出て欲しい。なお、事務局へのメールアドレスの提示は、読み違いなどを防止するためデジタルデータでお願いしたい。
- 2) 原田常任理事より、各業務検討委員会の活動について質問がなされた。
 - (1)業務検討委員会の活動は次回の業務指針改訂に関する活動と考えてよいのかの間について、川崎会長・那須野専務理事より、今回委員会名称は従前の「業務指針検討委員会」ではなく「業務検討委員会」とした。CE の業務内容は大きく変化しつつあるので、その変化に対応できるよう専門知識を活かした業務の検討をおこなう事を主な活動としてもらいたい。また委員会の人数に制限はないが、委員会を頻回に開催する委員会では考慮をお願いしたい。と発言がなされた。

3) 柴田常任理事より、透析液等安全委員会にオブザーバーを設置したい旨、発言がなされた。それを受けて川崎会長よりオブザーバーの設置は、担当理事が必要に応じて会長の許可を得れば設置は可能で、オブザーバーにも旅費の支弁も可能である。

議題 2. 「第 23 回日本臨床工学会収支決算ならびに監査報告」の件（報告および承認事項）

1) 山形県臨床工学技士会別途提示資料および別添資料に沿って佐藤学会長より報告がなされた。

(1) 一般演題数 450 演題・主要演題数 124 演題、

登録者数：会員 1500 名・非会員 400 名・学生 197 名（有料参加者数合計 2097 名）

・招待者数 178 名・体験コーナー参加者 682 名 参加者合計 2957 名、

託児所利用者：1 日目 5 名・2 日目 4 名

(2) 収支決算報告、収入 63,757,548 円 支出 60,612,988 円

2) 西村監事より、業務執行状況および会計処理執行状況について正しく執行されていた旨監査報告がなされた。

3) 大石常任理事より意見交換会の来賓挨拶時において、会場後方の参加者にかかなりのざわつきがあり、来賓に対し大変失礼であるとの発言がなされ、ビール等の出すタイミングやスタッフからの注意喚起等が必要との合意を得、次回学会参加者へ周知・啓発を図ることとした。

4) ベストプレゼンテーションアワードについて、最優秀演題となった演題の論文が、その後まもなく他団体の雑誌に掲載された件について指摘された。

(1) 職能団体である当会としては、二重投稿は問題ないのではとの意見もある。

(2) 当会としてはベストプレゼンテーションアワード選考の基準について、明文化する必要があるため学術部で検討することとした。

議題 3. 「第 25 回日本臨床工学会」および「平成 26 年度公益社団法人日本臨床工学技士会総会」の件（報告事項）

1) 鈴木学会長より別添資料を提示され発言がなされた。

(1) 平成 26 年 5 月 10 日（土）・11 日（日） 仙台国際センター（メイン会場）・他 2 会場 ホテルメトロポリタン仙台（懇親会会場）開催に向け、ほぼスケジュール通りに準備が進められている。

(2) 5 月 11 日（日）は仙台市でハーフマラソン大会が開催されるが、JTB により宿泊施設 1000 室をおさえている。

(3) 演題募集については、できるだけ募集期間を延長しない方針で、ハイブリッドポスターセッションも検討している。

2) 鈴木学会長よりの提案・審議事項

(1) 全国臨床工学技士会代表者会議の開催を、前日金曜日の開催に戻して欲しいとの提案

について、前日金曜日開催と決定した。

(2)全国臨床工学技士会代表者会議後に意見交換会を開催し、参加を希望する代議員にも参加を促したいと要望がだされ、代表者会議出席者と参加を希望する代議員が参加できることとした。なお周知方法については理事会で検討するとともに、意見交換会にかかる経費は、全額参加費により賄うこととした。

(3)11日午前中に「学びのプログラム」(被災地視察)を3コース(参加総定員:320名、参加費¥3000程度)の予定で企画したいと提案された。その提案についてプログラムを早く決めないと参加者の予定が立たないなどの問題点もある、宮城県技士会に持ち帰り再度検討することとした。

3) 那須野専務理事より、開催趣意書と協力依頼が一冊にまとまっている件について質問がなされた。

(1)鈴木学会長より、厚生労働省には開催概要のみを提出しており、関係団体にも同じような形で提出することは可能である旨説明がなされた。

(2)企業に提出するものに関しては、一冊にまとまったものでよいとの意見で一致した。

議題4 平成25年度事業状況

1) 議案書に記載のとおり。修正・加筆部分を下に示す。

P4.公2 1) (1) 参加人数:会員412名 非会員59名 合計471名 を追記。

P5.公3 1) (1) ポスター3種類を3枚ずつ配布した。を追記。

P5.公3 4) (2) 同行者 熊切こず恵 を削除(自費で参加したため)

6.公3 4) (3) 山下芳久氏⇒高柳秀夫氏に変更。通訳として園川龍毅氏が所属施設の経費負担で参加。を追記。

P7.下記に後援・協賛を行った(H25/7月現在)の項において、タイトルや主催団体が抜けている部分があるので掲載時には内容に注意する。

2) 那須野専務理事より次の2項目について発言がなされた。

(1)「医療機器安全管理指針第1版」を冊子として、理事・各都道府県技士会・関係行政機関に配布することとし印刷手配をした。

(2)「医療機器の停電対応マニュアル」の冊子化についての現状。

その後、配布範囲などを担当理事・委員会・川崎会長などで検討することとした。

3) 松阪事務局長より平成25年4月1日～6月30日までの4半期収支状況報告が別添資料に沿って報告がなされた。また会員数の推移についても平成25年6月30日現在14,144人(平成24年同時期 13,092名)平成25年4月1日～6月30日までの新規入会者数 467名との報告がなされた。

議題5 「第3回東方論壇」の件(報告および承認事項)

1) 平成25年8月3日・4日に中国上海で開催され、川崎会長・山家敏彦氏・榎村友隆氏・

が演者としてまた園川龍毅氏が通訳として参加することが確認された。

議題 6 その他

1) 「臨床工学技士連盟」に関わる件

(1) 肥田常任理事より 7 月 27 日現在の連盟の会員数は 91 名で設立資金が無く、資金の調達に苦慮している、との発言がなされた。

(2) 当会と連盟との基本的連携について補助金は不可能である。また会員個人に直接的な連盟への加入を促すことはできない。しかしお知らせといった形態であれば当会 HP へのバナー貼り付けは可能で、連盟への入会者を増加させ会費収入の増収に繋げることは出来るとの判断が確認された。

2) 内部役員に対する積立傷害保険が平成 25 年 7 月 2 日から 5 年継続契約が済んでいる旨、報告された。

3) 那須野専務理事より、公益法人の役員の責任が追求される訴訟も出ていることから、「役員賠償責任保険」の保険（1 事象保証 1 億 保険料約 20 万円/人 総額 360 万円 掛け捨て）加入の是非について説明がなされた。それを受けて医療関係にとどまらず一般にどのような訴訟が起きているのか、他団体の状況など調査検討し、継続審議とすることとした。

4) 那須野専務理事より退任する役員の慰労に関わる件で発言があり、内規に則り非常勤としての在任年数×1 万円で支給することとした。

なお議案書の中島章夫氏の在任期間について、記載の「平成 19 年度～平成 20 年度 2 年」を削除し、「平成 23 年度～平成 24 年度 2 年」のみとすることが確認された。

5) 本間副会長の発言後、「一般社団法人医療安全全国共同行動」への年会費について予算計上している 10 万円と社団法人設立お祝い金として 5 万円を入金することとした。

6) 金子常任理事の発言後、「チーム医療推進協議会」年会費として 10 万円入金することとした。

7) 那須野専務理事の発言により、会長代行の順位について

第 1 順位：本間副会長 第 2 順位：井福副会長 第 3 順位：真下副会長 に決定した。

8) 那須野専務理事より会員カードの発行について次の発言がなされ承認された。

(1) 福利厚生委員会で作成したデザインを元に、デザイン会社で当会のイメージカラーの青を基調としたカード（案）を作成した。

(2) 裏面には、氏名と会員番号のバーコードを印刷する。新規入会者については磨耗に強いシールを用い事務局で裏面印刷し発送する。従前の正会員については印刷会社より発送とする。

9) (公社) 日本透析医会災害時医療対策委員会より「被災地先遣隊・支援コーディネータ登録と災害時情報ネットワークメーリングリスト参加のお願い」について、川崎会長より説明がなされ、対応は災害対策委員会に一任することとした。

10) 西村監事より、歳入・歳出に加え、理事の業務執行状況・給与体系・出張などに関し

て、内規に照らし合わせた監査を十分な時間をとりながら継続していく旨、発言がなされた。

- 11) 先日メーリングリス上で行われた「シャントエコーの実施状況について」森脇常任理事より説明がなされ、さらに詳細な調査はアンケート結果を踏まえ、血液浄化業務検討委員会で実施することとした。またメーリングリスを使つてのアンケートは、回答専用アドレスを使用しての実施をお願いしたい。との発言が那須野常任理事よりなされた。
- 12) 真下副会長、那須野専務理事より内規類の見直しについては継続する必要性があり、新理事の方々にはこれまでの資料をメーリングリスで配布する。また非常勤の役員への講演料支弁についての見直し等、定款の改定も視野に入れなければならないとの発言がなされた。
- 13) チーム医療推進協議会報告が別添資料に沿って金子担当常任理事より説明がなされた。
- 14) 高橋順子常任理事より委員会の組織・人選にあたり苦慮している件で以下の発言がなされた。

(1) 新任の理事の場合、委員会の組織・人選をどのように進めてよいか解らなかつた。

(2) 新任の理事に対するマニュアルなどの必要性はないか。


それを受け須野専務理事より、「公益法人の理事とは」といったところからの業務を明文化したマニュアルが必要であろう、掲載内容、策定方法等詰める必要事項があり今後の課題としたい旨の追加発言がなされた。


その後議長である川崎会長の平成25年度公益社団法人日本臨床工学技士会第1回常任理事会の終会が述べられ閉会された。

以上

平成25年7月27日

議事録署名人

代表理事： 川崎 忠行  印

監 事： 西村 和典  印
(記名 押印)